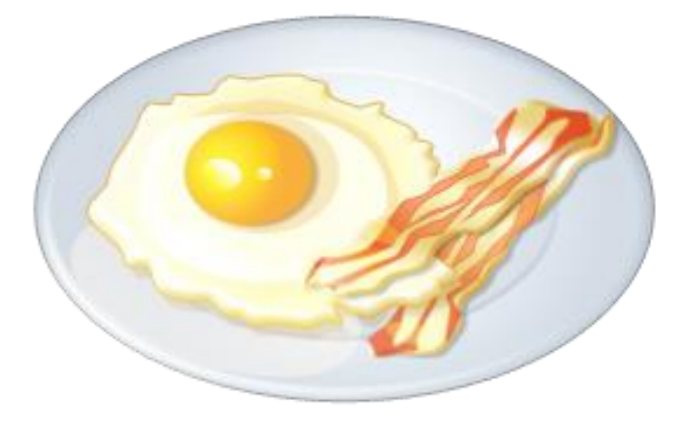




「朝食」で大学生と熊本を元気に！



チームBreakfast

大学の食堂で農産物を用いた朝食を提供し、学生の朝食摂取向上と地域の農業の活性化を図る政策提案をします！

なぜ、「朝ごはん」か？

朝食は、単に栄養を摂取するだけではなく脳の働きの活性化、生活習慣病予防、生活リズムの調節など重要な機能を有している。

朝食欠食率の年次推移をみると、男女ともに20代の欠食率が高い！！

表1 朝食欠食率の年次推移（性・年齢階級別）（％）

		平成20年 2008	21年 2009	22年 2010	23年 2011	24年 2012
男性	総数	13.1	12.0	11.9	12.6	10.8
	総数	14.6	14.1	13.7	14.4	12.8
	15～19歳	18.4	15.5	14.5	8.7	12.3
	20～29歳	30.0	33.0	29.7	34.1	29.5
	30～39歳	27.7	29.2	27.0	31.5	25.8
	40～49歳	25.7	19.3	20.5	23.5	19.6
	50～59歳	15.1	12.4	13.7	15.0	13.1
60歳以上	6.3	7.0	6.7	4.9	5.8	
女性	総数	11.9	10.1	10.3	11.1	9.0
	総数	11.9	10.1	10.3	11.1	9.0
	15～19歳	10.0	10.2	14.0	13.3	10.7
	20～29歳	26.2	23.2	28.6	28.8	22.1
	30～39歳	21.7	18.1	15.1	18.1	14.8
	40～49歳	14.8	12.1	15.2	16.0	12.1
	50～59歳	13.4	10.6	10.4	11.2	9.2
60歳以上	6.8	5.8	5.0	5.5	5.3	

（出所：厚生労働省、平成24年）

現在の問題

- ① 熊本大学生では、特に一人暮らしの学生で朝食の欠食がみられ、その多くはコンビニのパンやお菓子を朝食としている。
- ② 学食では、食品の一括購入というシステムのため県内の農産物を必ず消費できる状況にはない。
- ③ 県内の農業就業人口の6割以上が60歳以上の方であり、今後少子高齢化が進めば新規就農者が大幅に増えない限り高齢化率は上昇する。

- 学食の職員は、1品くらいは県産品を提供したいと思っている
- 学生は、熊本の特産品を使ったメニューを食べたいと思っている
- 農家では、市場に出せない「規格外」野菜を廃棄することもある



「規格外農産物」をお金に換える『もったいないプロジェクト』

まずは、規格外トマト！！



協力農家に学食チケットをプレゼント



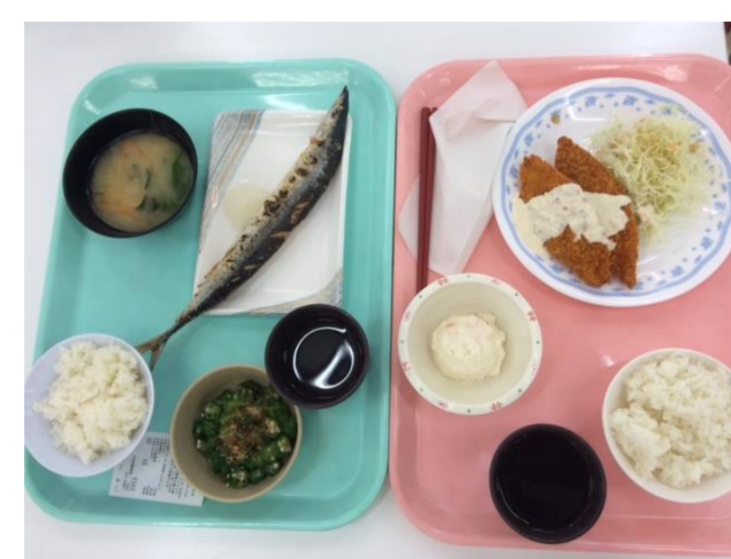
学生と農家の交流

入学希望者の増加
学力向上
就職率アップ

「規格外農産物」をお金に換える『もったいないプロジェクト』の援用

「規格外」トマトの出荷
「規格外」トマトの買い取り

熊大朝食モデル Tomato ver.



朝食の提供
食・農業に関する情報発信



おいしいトマトの提供
食・農業に関する関心（後継者対策）

農業新規従事者増える！？
農家の嫁増える！？

学食自慢
= 大学自慢
= 大学に誇り

コストダウン！！
【トマトの値段比較】
学食：500円/キロ
農家：250円以下/キロ

生協支援のもと大学施設内で朝食販売車を学生が運営（起業支援）

ホットドッグ
フレンチトースト
サンドイッチ、スープ、
ジュースetc..
(学生アンケートより)

規格外トマトで・・・
100円メニュー！！
トマトジュース
ミネストローネ

「朝食コンテスト」
の実施
学生が考案したメニュー

集中力、学力向上
生活リズムの改善

期待できる効果

付随する妄想

図1：熊大モデルTomato versionの概要

期待される効果

- 大学や大学生によっては朝食摂取により集中力や生活リズムを整えることができる（学力向上、生活リズムの改善）。
- 学食が、学生にとって使いやすい、使ってみたいと思われる食堂になる（学食の利用者増加）。
- 学生が食や農業に興味をもつ（食育の機会）。
- 農家にとっては、規格外になっていた野菜を活用できる（廃棄野菜の活用）。
- ルートが確立されれば、他の大学でも実施が可能になる（他大学への波及）。

